

令和 8 年度
愛媛県立東予総合高等学校
建築土木科
シラバス

教 科	国語	科 目	現代の国語			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教科書 副教材等	新編現代の国語（東京書籍） 現代新国語辞典（三省堂）		
学習目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言語が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	自己を見つめる こそめスープ ルリボシカミキリの青 気になるニュースについて話そう 他者に会おう 水の東西 集めた情報の内容を検討して意見文を書こう			○言葉の役割を把握し、話し言葉と書き言葉の違いを理解する。 ○構成に注意しつつ、要旨や要点を理解する。 ○作者の気持ちを理解し、自分の考えをまとめる。 ○情報を収集整理し、伝えるようにする。 ○語感を磨き、語彙を豊かにする。 ○論理の展開を捉える。 ○比較を通じて文化の差異への理解を深める。 ○読み手の理解のため構成を工夫し、新たな問題意識を持つ。			
2	言葉と生活 視野を広げる スキマが育む都市の緑と生命のつながり 情報を整理しながら話し合おう 社会と関わる 鍋洗いの日々 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう			○分かりやすさに配慮した表現や言葉遣いに造詣を深める。 ○相手の理解が得られるよう、表現を工夫する。 ○実社会において使える語彙力を身に着ける。 ○論理の展開を捉え、文章や図表に含まれる情報を関連付ける。 ○生態系という視点をもち、自然観について考える。 ○情報の吟味の仕方について理解し、自分の考えを広げ深める。 ○時間軸に注意し、周囲の変化を確認する。 ○仕事に対する理解を深める。 ○情報と自分の意思決定を関連付ける。			
3	言語と生活2 世界とつながる 美しさの発見 りんごのほっぺ 読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう			○引用の仕方や出典の示し方やそれらの必要性について理解する。 ○話合いの題材を考え、発想を広げるよう話し合う。 ○文脈における用語の違いを理解する。 ○作者の価値観や主張を理解する。 ○作者の思いを理解し、戦争体験を語り継ぐ意義を考える。 ○情報を収集し取舍選択しつつ目的や意図に応じて書く。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・言葉の働き及び話し言葉と書き言葉の違いを理解し、実社会において必要な語彙力を身につけている。情報を収集し活用する力が身についている。					
思考・判断・表現		・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。					
評価方法	授業中に提示された課題、定期考査だけでなく、漢字テスト、ファイルや学習プリントなどの提出物、出席状況、授業態度などから、総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 教科書をよく読み、わからない漢字の読みや語句の意味は自主的に辞書で調べましょう。 ○ 受身の態度ではなく、自分なりの感想や疑問を持ち、積極的に授業に臨みましょう。 ○ プリントはきちんと書き込み、後で見てよくわかるように整理しましょう。○ 提出物は期限を守って必ず提出しましょう。							

教 科	国語	科 目	言語文化			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教 科 書 副教材等	新編言語文化（東京書籍） 現代新国語辞典（三省堂）		
学習目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	現代文編 随筆 さくらさくらさくら 小説 とんかつ 古文編 古文入門 古文に親しむ 児のそら寝 随筆 徒然草 漢文編 漢文入門 訓読の基本 故事成語			○引用歌や体験談から日本独特の桜に関する感性について理解を深める。 ○会話や行動の描写から登場人物の心情と変化を読み取る。 ○古文と現代文の違いについて確認し、文章のリズムや調子の違いを感じ取る。 ○歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを味わう。 ○随筆に表れた作者の考えを叙述からの確に捉える。 ○訓読のきまりを理解し、格言に親しむ。 ○故事成語の元になった話を読み、漢文の読解に慣れ親しむ。			
2	現代文編 小説 羅生門 古文編 枕草子 うつくしきもの 伊勢物語 芥川 漢文編 論語			○登場人物の心情の変化を場面に即して読み取り、主題を考える。 ○作品の内容を自分と関連付けながらものの見方、感じ方、考え方をまとめる。 ○歌物語に描かれている内容を叙述からの確に捉える。 ○孔子の学問、人間、政治に対する考え方を知り思想に興味を持つとともにものの見方や考え方を豊かにする。			
3	現代文編 詩歌 柳あをめる 古文編 紀行 奥の細道 漢文編 絶句と律詩			○短歌の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ○構成に注目しながら作品に込められた思いを読み取る。 ○漢詩のきまりを理解し、作品の世界を味わう。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。					
思考・判断・表現		・「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉が持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。					
評価方法	定期考査、漢字テスト、ファイルや学習プリントなどの提出物、出席状況、授業態度などから総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 教科書をよく読み、わからない漢字の読みや語句の意味は自主的に辞書で調べましょう。 ○ 受身の態度ではなく、自分なりの感想や疑問を持ち、積極的に授業に臨みましょう。 ○ プリントはきちんと書き込み、後で見てよくわかるように整理の仕方を工夫しましょう。 ○ 提出物は期限を守って必ず提出しましょう。 ○ 教科書と関連する本や新聞を読むなど、図書館を利用して読書に親しみましょう。							

教 科	公民	科 目	公共			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教科書 副教材等	高等学校 改訂版 新公共（第一学習社）		
学習目標		広い視野に立って、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、人間としての在り方・生き方について考える基礎的な力を養い、良識ある公民としての必要な能力を養うことを目指す。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 編 公共の扉 1 公共的な空間を作る私たち 2 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 3 公共的な空間における基本原理			○公共的な空間を他者と共有する社会の一員としての自覚を深め、自らの生き方を主体的に選択できる。 ○先人の取組や知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ○人間としての尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解する。			
2	2 編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 1 法的な主体となる私たち 2 政治的な主体となる私たち 3 経済的な主体となる私たち			○憲法の下、適正な手続きにより、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ○よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加して合意を形成することなどを通して築かれるものであることを理解する。 ○公正、自由な経済活動により、資源の効率的な配分が図られることや、市場経済システムの機能、国民福祉の向上の役割を政府が担うこと、経済活動と個人の尊厳の両立が必要であることを理解する。			
3	3 編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 1 ケーススタディ			○持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担うことができる。 ○公共の精神を持った自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動ができる。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解できるとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。					
思考・判断・表現		・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」、「長期休業中の課題の内容」により評価します。また、学年の成績は各学期の成績を相加平均し、5段階法でも評価をします。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
「公共的な空間」や「公共の精神」など、一人一人が社会で生活し、よりよい社会を形成していく上で認識すべき事柄について考察し、理解を深める学習です。現代社会の諸課題についての問題意識と理解、解決に向けた他との協働した活動が大切になることから、物事を多角的・多面的に考察し、判断するとともに、適切に表現できる力を身に付けよう。							

教 科	数学	科 目	数学 I		単位数	3
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教科書 副教材等	高校数学 I（実教出版） 高校数学 I 専用スタディノート	
学習目標	数と式、2次関数、三角比、集合と論証及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する態度を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい		
1	第1章 数と式 1 節 整式 2 節 実数 3 節 方程式と不等式			○数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式及び2次不等式についての理解を深め、それらを活用できるようになる。		
	第2章 2次関数 1 節 関数とグラフ			○2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識する		
2	2 節 2次関数の値の変化			○2次関数を具体的な事象の考察や、2次不等式を解くことなどに活用できるようになる。		
	第3章 三角比 1 節 三角比 2 節 三角比の応用			○直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようになる。		
3	第4章 集合と論証 1 節 集合と論証			○集合に関する基本的な用語・記号について学習する。		
	第5章 データの分析 1 節 データの分析			○統計に関する用語の意味や扱いについて学習し、さまざまな資料を収集、整理しながら、平均値、中央値、最頻値、四分位偏差、分散、標準偏差について学習する。		
評価の観点		内 容				
知識・技能		・数学 I における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数 学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりできる。				
思考・判断・表現		・数や式を適切に変形する力や図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、表 や式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象から設定した問題について、 適切な手法で分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断 したりする力を身に付けることができる。				
主体的に学習に 取り組む態度		・数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて 判断したりすることができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。				
評価 方 法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観 点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・ プリント・レポート）」、「小テスト等」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点か ら評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。					
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項						
○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 授業中は先生の指示（「聞きましょう」「書きましょう」「話し合いましょう」など）をしっかり聞き、指示され た通りの活動を行い、授業に積極的に参加してください。 ○ わからない内容がある場合は、遠慮しないで積極的に質問してください。						

教 科	理科	科 目	科学と人間生活			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教 科 書 副教材等	高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社） ネオパルノート 科学と人間生活（第一学習社）		
学習目標		・ 基本的な概念や原理・法則を理解し、自然の事物・事象についての観察・実験を通して、自然に対する関心や探究心を高める。 ・ 現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活との関わりについて考察し、環境問題などへの理解を深める。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	序章 科学技術の発展 第1章 物質の科学 1 材料とその利用 2 衣料と食品			○情報伝達技術、エネルギー資源の活用と交通手段、医療技術の発展の歴史を例に、科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。 ○身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解する。 ○繊維の分類を通して繊維の性質を学び繊維材料の特性をみる。 ○食品の栄養素の知識を深め、食育や健康に留意する。			
2	第2章 生命の科学 1 ヒトの生命現象 2 微生物とその利用 第3章 熱や光の科学 1 光の性質とその利用			○遺伝子やDNAのはたらき、免疫機能について理解する。 ○ヒトの視覚のはたらきと情報伝達のしくみを学ぶ。 ○微生物の発見の歴史からウイルスや感染症を理解する。 ○身近な発酵食品を考察し、地域の酒造メーカーを調べる。 ○光は波の一種であることを理解する。 ○電磁波が様々な領域で利用されていることを学び、情報通信や医療の分野での応用事例を理解する。			
3	第4章 地球や宇宙の科学 2 太陽と地球			○太陽系の惑星のグループ分けを学び、それぞれの天体の特徴について理解する。 ○天球と太陽の日周運動・年周運動から現在の暦の歴史を理解させ、日食や月食の天文現象の考察を行う。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・ 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関連について基本的な概念や原理法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
思考・判断・表現		・ 自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。					
主体的に学習に取り組む態度		・ 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
評価方法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・ワーク・レポート等）」、「小テスト等」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の総合成績とし、A～Cの3段階でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 授業への参加態度は、社会に出て仕事をするときの態度と同じである。授業に集中しましょう。 ○ 実験や実習の際は、興味を持って積極的に参加しましょう。 ○ 実験操作において、危険を伴うことがあるので、特に先生の指示に耳を傾けましょう。 ○ 課題については、提出時期を指示するので、期限内に確実に提出しましょう。 ○ わからない内容があるときは、そのままにせず、積極的に質問しましょう。							

教 科	保健体育	科 目	体育			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教科書 副教材等	新高等保健体育改訂版（大修館書店）		
学習目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 オリエンテーション 2 体づくり運動 3 選択制授業 1 ・ソフトボール（ベースボール型） ・バレーボール（ネット型） ・ダンス 4 体育理論 1			○「体育」の学習についての意義や内容、評価の方法を理解する。 ○体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解する。 ○自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 ○ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。 ○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ○ダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。 ○作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。			
2	1 体づくり運動 2 選択制授業 2（ゴール型） ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール 3 陸上競技（長距離走） 4 体育理論 2			○自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする。 ○ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 ○フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする。 ○長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。			
3	1 体づくり運動 2 選択制授業 3（ネット型） ・テニス ・バドミントン ・卓球 3 体育理論 3			○手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、実生活に役立てることができるようにする。 ○ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 ○攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ○スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について自主的に取り組むことができるようにする。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。					
思考・判断・表現		・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。					
主体的に学習に取り組む態度		・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。					
評価方法	学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、おもに「スキルテスト」、「単元テスト」、「課題・レポート」、「観察（授業への取組）」等により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解しよう。 ○ 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにしよう。 ○ 各運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにしよう。							

教 科	保健体育	科 目	保健			単位数	1
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教 科 書 副教材等	新高等保健体育改訂版（大修館書店） 新高等保健ノート（大修館書店）		
学習目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1単元 現代社会と健康						
	1 日本における健康課題の変遷			○健康指標や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解し、健康水準や疾病傾向と社会との関わりを理解する。			
	2 健康の考え方と成り立ち			○健康の構成要素や健康にかかわる要因を理解する。			
	3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり			○ヘルスプロモーションの考え方や健康を保持増進する方法を理解する。			
	4 健康に関する意思決定・行動選択			○健康を保持増進するための適切な意思決定・行動選択とは何かを考える。			
	5 現代における感染症の問題			○感染症の種類や発生要因、感染症に関わる現状を理解する。			
	6 感染症の予防			○感染症予防の三原則と予防のための個人や社会の取組を理解する。			
2	7 性感染症・エイズとその予防			○性感染症、エイズの現状と課題、予防に必要な個人と社会の取組を理解する。			
	8 生活習慣病の予防と回復			○生活習慣病のリスク因子と予防や回復のために必要な取組を理解する。			
	9 身体活動・運動と健康			○身体活動、運動と健康の関係や継続的に必要な個人や社会の取組を理解する。			
	10 食事と健康			○食事と健康の関係を理解し、食生活指針を実践できる力を養う。			
	11 休養・睡眠と健康			○休養、睡眠と健康の関係を確保に必要な個人と社会の取組について理解する。			
	12 がんの予防と回復			○がんの種類を理解し、予防や回復のための取組について理解する。			
	13 喫煙と健康			○喫煙による健康への影響と健康被害の防止に必要な対策について理解する。			
	14 飲酒と健康			○飲酒による健康への影響と健康被害の防止に必要な対策について理解する。			
	15 薬物乱用と健康			○薬物乱用による健康および社会への影響について理解する。			
	16 精神疾患の特徴			○代表的な精神疾患の特徴や症状と発症、回復のポイントを理解する。			
	17 精神疾患への対応			○精神疾患の予防や発見、セルフケアについて考え、取組の重要性を理解する。			
3	第2単元 安全な社会生活						
	18 事故の現状と発生要因			○事故が起こる要因を理解し、現状について考える。			
	19 交通事故防止の取組			○交通事故防止には個人だけでなく社会的な取組も重要であると理解する。			
	20 安全な社会の形成			○安全な社会を作るために必要な個人的取組や環境整備について考える。			
	21 応急手当の意義と救急医療体制			○応急手当の意義と救急医療体制の現状を理解し、適切な利用法を身に付ける。			
	22 日常的な応急手当			○けがの基本的な応急手当の方法と熱中症の予防、適切な対応を身に付ける。			
	23 心肺蘇生法実習			○心肺蘇生法やAEDを用いて実習を行い、知識と実践力を身に付ける。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。					
思考・判断・表現		・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。					
主体的に学習に取り組む態度		・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれぞれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む学習に主体的に取り組もうとしている。					
評価方法	学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。主に「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物・課題（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト」、「定期考査」等により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 健康・安全に関する話題を身近なものとして捉え、学習した内容を自分自身の生活とを結び付け生かせるようにしましょう。							
○ 授業の50分間を大切に、積極的に取り組みましょう。							
○ 課題は必ずやりましょう。ていねいに取り組み、提出期限は守りましょう。							

教 科	芸術	科 目	音楽Ⅰ			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教科書 副教材等	MOUS A 1（教育芸術社）		
学習目標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指す。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	・歌唱 校歌、日本歌曲、外国語の曲など ・器楽（ドラム） ・鑑賞 カンツォーネについて			○歌唱活動に関心を持ち、音楽表現を工夫する。 ○歌詞の内容と曲想を感受しながら歌唱する。 ○基本的な奏法を身に付け、リズムパターンを正確に演奏する。 ○即興的な奏法を身に付ける。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ○各曲の音楽的特徴を理解し、関心を持って鑑賞する。			
2	・合唱 講座内及び校内文化祭で発表 ・器楽（ギター） ・鑑賞 西洋音楽史（中世、バロック、古典派） 舞台芸術（歌劇「カルメン」）			○合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容や曲想を生かして、声部の役割を理解し、全体の響きに調和させて、表現を工夫して合唱する。 ○ギターの音色や奏法を身に付け、曲想に合った音楽表現をする。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。 ○オペラの特徴を理解し、関心を持って鑑賞する。			
3	・創作 音階、音楽を形づくっている要素の働きや構成 ・器楽（三線） ・鑑賞 西洋音楽史（ロマン派、近・現代）			○音階の特徴を生かして、イメージを持って音楽を作る。 ○三線の基本的な奏法を身に付け、曲想にあった音楽表現を工夫する。 ○音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりを理解する。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。					
思考・判断・表現		・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。					
主体的に学習に取り組む態度		・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。					
評価方法	3観点の達成度を、「実技テスト」「授業への取組」「確認小テスト」「提出物」等を基に総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○音楽と生活との関わりに関心を持つとともに、思いや意図を持って表現活動や鑑賞活動を行いましょう。 ○様々な活動を通して、自己表現する喜びや楽しさ、仲間とともに活動する喜びを味わい、音や音楽に興味・関心を持ちましょう。 ○鑑賞では、楽曲の特徴や演奏の良さや美しさを味わって聴きましょう。							

教 科	芸術	科 目	美術 I			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭・総合	学 年	1	教 科 書 副教材等	美術 I（光村図書出版）		
学習目標		1 美術との日常的なかかわりを学習し、身近な生活や自然に普遍的な美を楽しもうとする感性を高める。 2 集中して授業に挑み、創造活動を主体的に展開する。 3 創造的活動を通して対象を見つめる美的体験を豊かにし、表現力と結び付ける。 4 鑑賞の能力を伸ばす。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	【オリエンテーション】 【絵画】 身近なものを描く 植物を描く 【デザイン】 アクリル絵の具の使い方 トーンセパレーション ポスター制作			○授業の進め方、美術 I 学習の意義を知る。 ○鉛筆、絵具の基礎を身に付ける。 ○鉛筆デッサンによる表現力を高める。 ○色彩の基本を学習する。 ○トーンの塗り分けを勉強し、デザイン基礎を学ぶ。 ○ポスター制作を通してメッセージの伝え方を知る。			
2	【映像メディア表現】 日常をとらえる アニメーションをつくる。 【鑑賞】 彫刻作品の鑑賞 【彫刻】 粘土塑像			○美しさを追及し、作品を仕上げる技能を身に付ける。 ○物体の形態を正しくとらえ、空間を演出する技能を身に付ける。 ○連続する動的な表現ができるようにする。 ○彫刻作品における立体感や量感の表現を知る。 ○粘土を使った立体表現を身に付ける。 ○多角的な物体の理解力を高める。			
3	【絵画】 ドローイング プレゼンテーション 【鑑賞】 日本美術と西洋美術 【まとめ】 これからの生活と美術			○それぞれの想像の世界を表現する。 ○自分の作った作品の発表、プレゼンテーションを行う。 ○西洋との比較を通し、日本文化の魅力を再認識する。 ○これまでの美的体験を生活に生かせるようにする。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・作品の出来映え ・必要な知識や技能を身に付けているか。					
思考・判断・表現		・制作時の創意工夫 ・発想したことをアイデアスケッチにまとめているか。					
主体的に学習に取り組む態度		・出席状況 ・授業の受け方 ・ノートのとり方 ・準備物 ・制作に取り組む姿勢					
評価方法	1 指定した提出日に間に合わない、完成した状態で提出されていない作品は、評価の対象としない。 2 美術の評価は、関心・意欲・態度（出席状況・授業の受け方・ノートのとり方など）発想や構想の能力（作品制作時の創意工夫・アイデアスケッチなど）創造的な技能（作品の出来映え・知識や技能の習得など）鑑賞の能力（自己評価表への記入・鑑賞時の発表など）の4つの分野で評価する。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 忘れ物をしない。準備や片付けを丁寧に行う。 ○ 提出物は必ず期限を守って提出すること。 ○ 「出来た」と思ってからが大切。先生や友達のアドバイスを聞いて、もう一手間加えてみよう。 ○ 丁寧に、こつこつと手を動かし続ければ、必ず作品は良くなります。 ○ 作品制作と鑑賞を通して感覚を磨くことで、感じ取る力、表現する力が身に付きます。美術の授業を楽しみ、生活を豊かにしましょう。							

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーション I			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教科書 副教材等	Revised Amity English Communication I（開隆堂） VITAL 1700 英単語・熟語（文英堂）		
学習目標		日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いて りして伝えるための基礎的な力を付けるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を 身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	Lesson1 The Beautiful Scenery			○行ってみたい場所やお気に入りの場所についてコミュニケーシ ョンを図ることで授業やクラスの雰囲気を良好なものにする。			
	Lesson2 My Best Friend			○「ちびまる子ちゃん」を題材に友人の在り方を今一度考え直す 機会とする。			
2	Lesson3 Love for Dance			○ダンスは単なる表現活動を超えて、人々の心をつ一つにする力や、 文化的な価値を持つものであることに気付かせる。			
	Lesson4 The Capsule Toys			○カプセルトイにあったらうれしいものについて説明し、外国人 から人気がある日本文化について話し合う。			
3	Lesson5 The History of Chocolate			○チョコレートを例に身近な食品から食に対する意識を高め、食 による健康や食材の安全面について思考する。			
	Lesson6 A Dog Trainer			○職業として動物を訓練することの苦勞を知ることで、人間と動 物の絆を感じ、自分の将来について話し合う。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・ 基本的な文法や語彙を理解し、基礎的な知識を身に付けることができる。 ・ 教科書で扱われている題材の主題や異文化の背景を理解できる。					
思考・判断・表現		・ 教科書の内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・ 教科書の内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができる。					
主体的に学習に 取り組む態度		・ 授業を通してコミュニケーションへの関心を持ち、積極的にまじめな態度で授業に参加 することができる。					
評 価 方 法	学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観 点で評価します。具体的には、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・ プリント）」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各 学期の成績の相加平均とし、5段階でも評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 授業の 50 分間を大切に、真剣かつ能動的に取り組むことが大切です。 ○ 授業をより効果的に受けることができるように、家庭での学習(宿題・予習)をしましょう。 ○ 英語を話せるようになるために、声に出して読みましょう。授業中の音読練習にも意欲的に取り組んでください。 ○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 英単語を覚えることが何よりも大切です。小テストが実施される場合はしっかり準備をして臨みましょう。							

教 科	家庭	科 目	家庭基礎			単位数	2
学 科	農業・工業・家庭	学 年	1	教科書 副教材等	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍) 家庭科ノート、調理実習ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)		
学習目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる ホームプロジェクト			○ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義を理解する。 ○人の一生を生涯発達の視点で捉え、青年期の課題を理解する中で、家族の一員としての役割を果たすことに関心を持ち、行動できるような態度を身に付ける。 ○子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解し、自分が将来保育にどのように関わることができるか考えを深めることができるようにする。 ○現在の高齢者の生活から高齢者福祉の基本的理念や介護保険制度を理解する。生活課題の解決を目指し、ホームプロジェクトを実施する(夏季休業中課題)。			
2	第5章 共に生き、共に支える 第6章 食生活をつくる (実習：和洋中1回ずつ) 第7章 衣生活をつくる			○家族・家庭を支える福祉について理解する。 ○食生活の基本は、栄養のバランスをすることであると理解し、栄養素の働き、食事摂取基準、食品群別摂取量などの栄養学について理解し、自分や家族の食生活に取り入れることができるようにする。 ○被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。衣服管理で適切な判断ができる。			
3	第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する			○住居に関する基礎的・基本的な技術を習得し、安全・健康で環境に配慮した住生活を送るには、どのような工夫が必要か考えることができる。 ○経済的自立と職業設計の重要性、雇用形態の変化を理解し、自分の将来について考えることができる。 ○持続可能な社会を構築するための消費や生活について考えることができる。 ○各ライフステージの課題やリスク管理について考えることができる。			
評価の観点		内 容					
知識・技能		・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることができる。					
思考・判断・表現		・生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。					
主体的に学習に取り組む態度		・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践することができる。					
評価方法	3つの観点について、定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○授業中は学習に集中し、グループワーク中は積極的に自分の意見を出しましょう。授業で身に付けた知識や技術を定着させ、自立につなげるため、また、家族の一員として家事を行い、生活の改善・充実に努めましょう。							
○実践力を養うために夏季休業中の課題としてホームプロジェクトを行っています。ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動に積極的に取り組みましょう。							
○実習に主体的に取り組ましましょう。また、火気、用具、材料などの取り扱いに注意をして、事故がないように気を付けましょう。							

教 科	工業	科 目	工業技術基礎			単位数	2
学 科	建築土木	学 年	1	教 科 書 副教材等	工業技術基礎（実教出版） 自作テキスト		
学習目標		工業に関する基礎的な技術を実験や実習によって体験し、各分野における工業技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解し、工業に関する広い視野と倫理観を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 コンピュータの利用 タイピング練習 ワードについて エクセルについて パワーポイントについて			○ 教科書等を使用し、タイピング練習をする。 ○ 文書作成・表計算・プレゼンテーション資料作成についての知識・技術を身に付ける。			
2	2 水準測量実習 基本操作 高低差の測定 往復観測 3 軸組模型 原寸図の作成 材料の切断、加工、組立て			○ 測量器機・器具の構造を十分に理解する。 ○ 2点の読みの差が高低差であることを理解する。 ○ 往復観測の差が測量の誤差であることを理解する。 ○ 木造の軸組の名称を学習し、各部材の仕組や役割を理解する。 ○ 工具の正しい使用方法を実践的に学習する。			
3	4 CAD 基本操作・コマンドの確認 平面図作成			○ 2次元CADを使用して、課題図を模写しながら基本的な操作方法を身に付ける。			
評価の観点		内 容					
知識・技術		・ 工業の各分野に関する基礎的な技術を身に付け、安全や環境にも配慮し、ものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身に付けている。工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を身に付け、工業の発展と環境・資源などとの調和のとれた在り方および現代社会における工業の意義や役割を理解している。					
思考・判断・表現		・ 工業技術に関する諸問題の適切な解決を目指して、広い視野から自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現する能力を身に付けている。					
主体的に学習に取り組む態度		・ 工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、社会の発展をはかる創造的・実践的な態度を身に付けている。					
評価方法	学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価します。定期考査は実施しませんが、製作実習での技能・技術の習得度、学習内容の理解度、定着度を評価します。また、作品のできばえやレポートの内容について評価しますが、完成した作品のみでなく、作業過程における取り組み状況や作業成果を総合的に評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 実習は作業を通しての学習が中心となりますが、テキスト等をよく読んで予習をしましょう。 ○ 自主的に学習する態度で臨み、班員と協力しましょう。 ○ 安全作業のために、真剣な気持ちと規律ある行動で臨みましょう。 ○ 作品やレポートの提出期日は必ず守りましょう。 ○ 工具を使用する際には、安全面に注意しましょう。 ○ 毎時間、作業服とファイル、筆記用具を準備しましょう。							

教 科	工業	科 目	工業情報数理			単位数	2
学 科	建築土木	学 年	1	教 科 書 副教材等	精選工業情報数理（実教出版） 情報技術検定 3 級問題集		
学習目標		1. 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。 2. 情報技術に関する知識と技術を習得する。 3. 工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 計算技術検定 基本操作とモードについて マニュアル計算 計算技術検定試験練習 四則計算 ・ 関数計算 ・ 実務計算 2 産業社会と情報技術 情報と生活、情報化社会のモラル と管理			○ 関数電卓の基本操作を学習する。 ○ 四則・関数・実務計算を時間内に正確に解けるようになる。 ○ 知的財産権、プライバシーの保護、ネチケットなど自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解する。			
2	3 ハードウェア 処理装置と周辺装置 データの表し方 論理回路の基礎 4 プログラミング プログラム言語 アルゴリズムと流れ図 順次・選択・繰返し処理 プログラミング応用			○ コンピュータの構成について理解する。 ○ コンピュータで用いるデータの表し方について理解する。 ○ 2 値信号で演算や制御を行う論理回路の基本について理解する。 ○ プログラム言語の種類について理解する。 ○ 問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解する。 ○ 順次・選択・繰返しの 3 つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解する。 ○ データの読取り・配列・文字データ等について理解する。			
3	5 ネットワーク コンピュータネットワーク等 6 コンピュータによる制御 コンピュータ制御、組込み技術			○ 身近なコンピュータネットワーク等を理解する。 ○ コンピュータ制御の考え方や、身の回りの組込み技術について理解する。			
評価の観点		内 容					
知識・技術		・ 情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技術を身に付けている。					
思考・判断・表現		・ 諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。					
主体的に学習に取り組む態度		・ 情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けている。					
評価方法	学習の状況は、おもに「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物（ノート・プリント・レポート）」、「小テスト等」、「情報技術検定」、「定期考査」により学習内容の理解度・定着度を評価する。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 定期考査は授業の内容から出題します。また、対策プリントが配布された場合は各自でしっかり復習してください。 ○ 宿題や課題は必ずやり遂げましょう。また、提出物は丁寧に書き、必ず提出期限を守り提出しましょう。 ○ 授業中は集中して先生の指示をしっかりと聞き、指示された通りの活動を行い、分からない内容がある場合は、その場で、またはその日のうちに質問するなど、授業に積極的に参加してください。 ○ 学習の成果をもとに情報技術検定を全員受験します。全員合格の目標を達成できるように努力しましょう。							

教 科	工業	科 目	建築計画			単位数	2
学 科	建築土木	学 年	1	教 科 書 副教材等	建築計画（実教出版）		
学習目標		建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、豊かな建築空間を合理的に計画・設計できる能力と態度を身に付ける。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 建築と環境の概要			○ 建築物を取り巻く環境の要素と建築物の内部を快適にする方法について理解する。			
	2 屋外環境と室内環境			○ 日本の気候や自然条件などが、人々の生活や建築物に与える影響を理解する。			
	3 換気と通風 伝熱と結露			○ 建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素について学習する。			
2	4 日照と日射			○ 日照、日射が建築物に与える影響について学習する。			
	5 採光と照明			○ 採光と人工光源による照明について学習する。			
	6 色彩			○ 基本知識である色の表し方や色彩と心理について正しく理解する。			
3	7 音響			○ 音の基本事項、建築材料の遮音性と吸音性について理解する。			
	8 住宅の計画			○ 住宅の役割等を正しく把握し、その構成や性能などについて学習する。			
評価の観点		内 容					
知識・技術		・ 建築計画を合理的かつ適切なものにするため、その根拠となるデータや数値を算出する方法等を身に付けている。また設計者として望ましい心構えや態度を身に付けるとともに、建築計画の意義や役割を理解している。					
思考・判断・表現		・ 建築計画にかかわる基礎的・基本的な知識・技術を活用して思考・判断し、表現できる能力を身に付けている。					
主体的に学習に取り組む態度		・ 建築計画に興味・関心をもち、その目的や意義をはじめ、建築物の作り出される過程とのかかわりなどを理解するため、意欲的に取り組んでいる。かいするためを合理的かつ適切なものにするため、その根拠となるデータや数値を算出する方法等を身に付けている。					
評価方法	・ 学習態度、学習意欲を評価する。 ・ 年間5回の定期考査の結果をもとに理解度、定着度を評価する。 ・ 演習でのデザインやアイデアを評価する。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 高校生らしいアイデアを創造するために、完成見学会等に積極的に参加しよう。 ○ テレビの住宅探訪、リフォーム番組等を見て参考にし、基礎知識の習得に努めましょう。 ○ 自分の考案したアイデアをデザイン帳などにメモして保存しましょう。							

教 科	工業	科 目	建築構造			単位数	2
学 科	建築土木	学 年	1	教 科 書 副教材等	建築構造（実教出版）		
学習目標		現代社会で生活文化を支える各種の建築物の構造形式や構成材料の概略を理解する。また、木構造の部材名称や部材の働き、構成方法を理解する。					
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 建築構造のあらまし 1 建築構造の歴史的発達 2 建築構造のなりたち 3 建築構造の分類 4 建築物に働く力 5 関連する法規と基準 2 木構造 1 構造の特徴と構造形式 2 木材 3 木材の接合 4 基礎 5 軸組			○ 建築構造の歴史的発達を社会情勢や科学技術の進歩、発展などに重ね合わせて理解する。躯体に用いる材料、つくり方、形による分類について理解する。 ○ 建築用木材の種類と特徴、木材の性質、合板など木質材料の特性について理解する。基礎の形式、軸組構成を学習し、それぞれの部材の接合や断面寸法、使用材料について理解する。			
2	6 小屋組 7 床組 8 階段 9 開口部 10 外部仕上げ			○ 小屋組、床組を構成する部材の名称や働きを理解する。また、部材の一般的な断面寸法も学習する。 ○ 階段を構成する部材の名称や働きを理解する。 ○ 開口部を構成する部材の名称や働きを理解する。また、建具や建具金物の種類を学習する。 ○ 外部仕上げの役割と材料を理解する。			
3	11 内部仕上げ 12 木造枠組壁構法 矩計図			○ 内部仕上げの役割と材料を理解する。 ○ 木造枠組壁構法の特徴、構造材料の特徴、躯体の構成を理解する。 ○ 矩計図を使い、部材の名称とその断面寸法を復習する。			
評価の観点		内 容					
知識・技術		・ 建築に関わる諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境に配慮して適切に活用している。現代社会における建築物の構造や建築材料の意義や役割を理解している。					
思考・判断・表現		・ 建築物の設計や施工をする際に生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断したり創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現できる。					
主体的に学習に取り組む態度		・ 建築構造に関心をもち、基礎的な知識や技術の習得に意欲をもって取り組むとともに、建築物の設計や施工に活用しようとする態度を身に付けることができる。					
評価方法	学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの評価の観点で評価します。具体的には、主に「出席の状況」、「授業中の態度や取り組む姿勢」、「提出物」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。						
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項							
○ 定期考査は、授業の内容から出題します。 ○ 課題やノート等の提出物は、必ず提出期限を守りましょう。 ○ 授業中は先生の指示をしっかりと聞き、指示された通りの活動を行い、授業に積極的に参加してください。							